

県民暮らしのアンケート調査

(平成 29 年 8 月実施)

香川県民の暮らし向きや消費の実態・意識を把握するために、「県民暮らしのアンケート調査」を実施した。

調査結果の概要		※四捨五入の関係で計数の内訳と合計の記述が一致しない場合がある。(本文も同様)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の県内景気: 「(やや)良くなった」と回答した人は7.5%、「(やや)悪くなった」と回答した人は17.0% 1年後の県内景気: 「(やや)良くなっている」と予想した人は11.3%、「(やや)悪くなっている」と予想した人は21.2% 	
(2)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の暮らし向き: 「(やや)良くなった」と回答した人は6.4%、「(やや)悪くなった」と回答した人は29.7% 1年後の暮らし向き: 「(やや)良くなる」と予想した人は7.1%、「(やや)悪くなる」と予想した人は28.9% 	
(3)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の収入: 「(やや)増えた」と回答した人は12.9%、「(やや)減った」と回答した人は33.3% 1年後の収入: 「(やや)増える」と予想した人は12.7%、「(やや)減る」と予想した人は29.5% 	
(4)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の物価: 「(やや)下がった」と回答した人は2.6%、「(やや)上がった」と回答した人は49.0% 1年後の物価: 「(やや)下がっている」と予想した人は2.5%、「(やや)上がっている」と予想した人は50.3% 	
(5)	<ul style="list-style-type: none"> 消費行動(お金の使い方): 「節約をしている」と回答した人は41.6% 1年後の消費行動(お金の使い方): 「節約をしている」と予想した人は47.3% この1年間で最も支出が増加した費目は「食費(除く外食)」、最も支出が減少した費目は「衣料品費等」 	
(6)	<ul style="list-style-type: none"> 今年の夏のボーナス: 「増えた」と回答した人は13.7%、「減った」と回答した人は23.5% 今年の夏のボーナスの使い道: 48.5%の人が「預貯金」の金額を増やすと回答 	

アンケート調査要領

1. 調査期間：平成29年8月24日～8月28日
2. 調査対象：香川県内在住の20歳以上の男女
3. 調査方法：インターネット調査（調査会社の登録モニターによる回答）
4. 有効回答数：549人
5. 回答者の構成と属性

■年代別・性別

	計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20代	80	14.6%	37	6.7%	43	7.8%
30代	111	20.2%	54	9.8%	57	10.4%
40代	118	21.5%	59	10.7%	59	10.7%
50代	109	19.9%	55	10.0%	54	9.8%
60代以上	131	23.9%	66	12.0%	65	11.8%
合計	549	100.0%	271	49.4%	278	50.6%

■世帯の年収別

	人数	構成比
300万円未満	81	14.8%
300～500万円未満	138	25.1%
500～700万円未満	116	21.1%
700～1000万円未満	76	13.8%
1000万円以上	39	7.1%
答えたくない・わからない	99	18.0%
合計	549	100.0%

■世帯主の職業別

	人数	構成比
会社員	261	47.5%
公務員	51	9.3%
自営業	72	13.1%
パート、アルバイト	48	8.7%
専業主婦(専業主夫)	8	1.5%
無職	91	16.6%
その他	18	3.3%
合計	549	100.0%

■世帯の人員別

	人数	構成比
1人	55	10.0%
2人	161	29.3%
3人	167	30.4%
4人	104	18.9%
5人	40	7.3%
6人	16	2.9%
7人以上	6	1.1%
合計	549	100.0%

■住宅の種類別

	人数	構成比
持家(一戸建て)	376	68.5%
持家(マンション等)	53	9.7%
社宅	14	2.6%
借家	106	19.3%
合計	549	100.0%

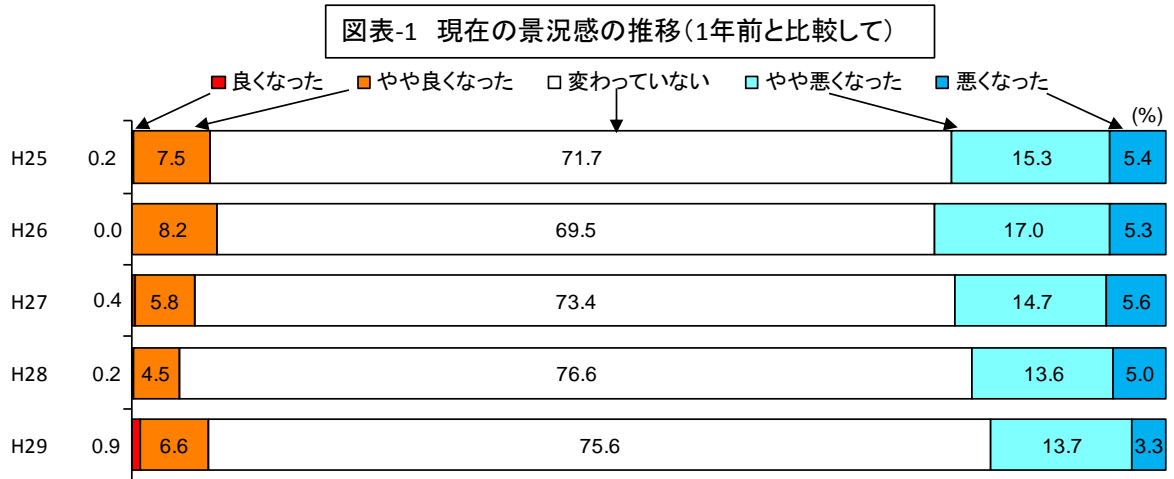
(注) 四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。(以降、本文中の図表も同様)

I. 香川県内の景気について

1. 現在の景気（1年前と比べて）

現在の景気について尋ねたところ、1年前と比べて「良くなった」＋「やや良くなった」と回答した人の割合は7.5%で、前年比＋2.8ポイント。一方、「悪くなった」＋「やや悪くなった」は17.0%と、前年比▲1.6ポイントであった。

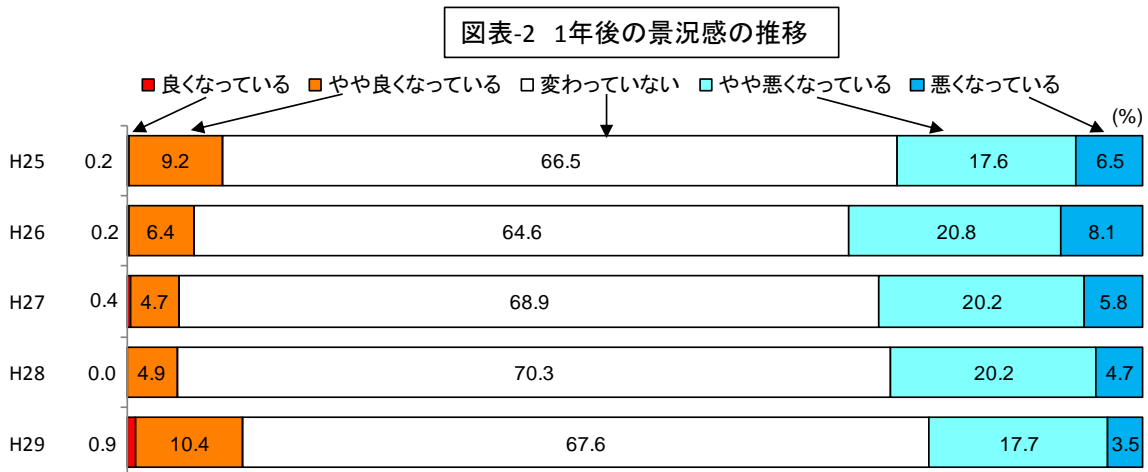
景気が良くなっているとした人が前年より増加した一方、悪くなっているとした人は平成26年以降減少しており、現在の景況感は改善傾向がみられる。



2. 1年後の景気

1年後の景気について尋ねたところ、現在と比べて「良くなっている」＋「やや良くなっている」と予想した人の割合は11.3%と前年比＋6.4ポイント。一方、「悪くなっている」＋「やや悪くなっている」は21.2%と、前年比▲3.7ポイントであった。

1年後の景気が改善するとした人の割合が増え、悪化するとした人は減っている。先行きにおいても、景況感に改善傾向がみられる。

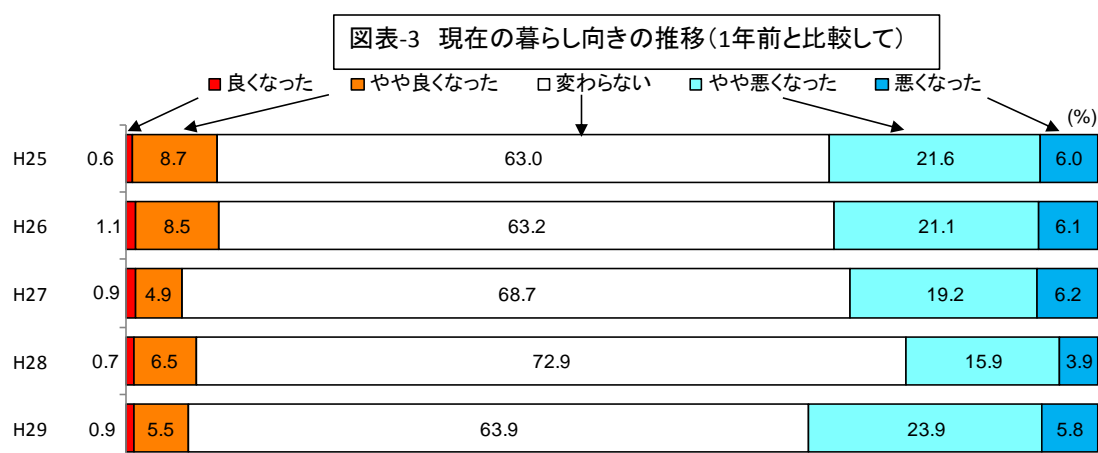


Ⅱ. 世帯の暮らし向きについて

1. 現在の暮らし向き（1年前と比べて）

現在の暮らし向きについて、1年前と比べてどうか尋ねたところ、「良くなった」＋「やや良くなった」と回答した人の割合は6.4%で、前年比▲0.8ポイント。一方で、「悪くなった」＋「やや悪くなった」は29.7%と、前年比＋9.9ポイントであった。

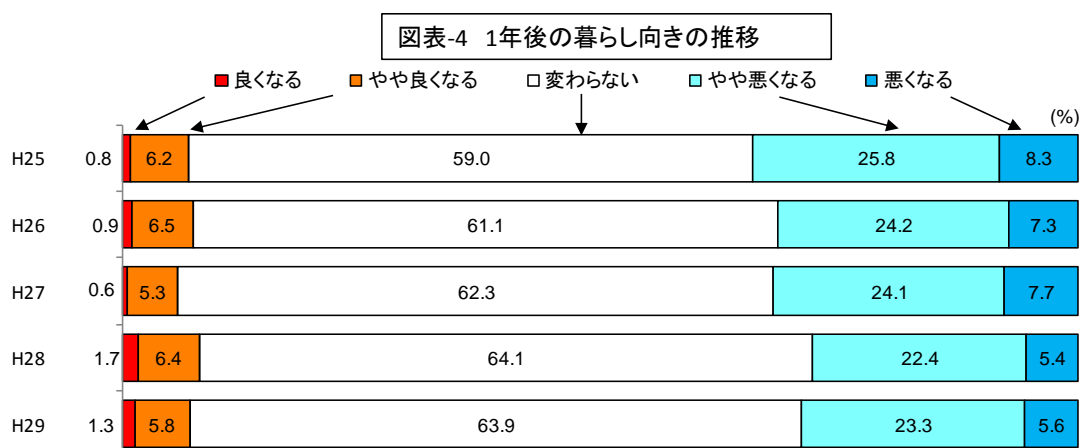
現在の暮らし向きについては、良くなったとした人が減る一方で、悪くなったとした人が増えた。推移をみると、悪くなったとした人はここ数年減少傾向にあったものの、増加に転じた。暮らし向きの改善には一服感がみられる。



2. 1年後の暮らし向き

1年後の暮らし向きについて、現在と比べてどうなると思うか尋ねたところ、「良くなる」＋「やや良くなる」と予想した人の割合は7.1%で、前年比▲1.0ポイント。一方で、「悪くなる」＋「やや悪くなる」は28.9%と、前年比＋1.1ポイントであった。

1年後の暮らし向きについては、良くなると予想した人が減り、悪くなると予想した人が増えた。前年までは悪くなるとした人に緩やかな減少傾向がみられたものの、今回調査では小幅な増加に転じた。現在の暮らし向き同様、改善には一服感がみられる。

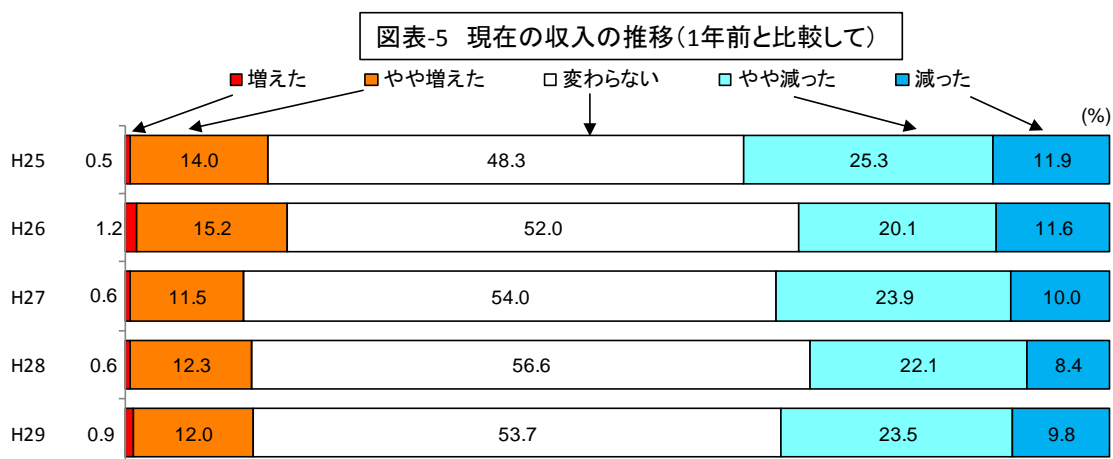


Ⅲ. 世帯の収入について

1. 現在の収入（1年前と比べて）

現在の収入について、1年前と比べてどうか尋ねたところ、「増えた」＋「やや増えた」と回答した人の割合は12.9%で、前年比同率。一方、「減った」＋「やや減った」は33.3%と、前年比＋2.8ポイントであった。

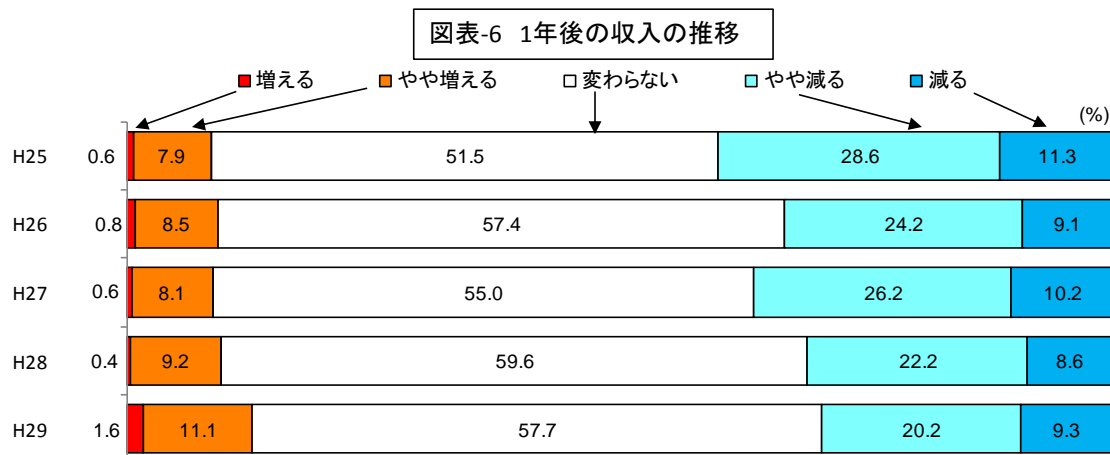
現在の収入については、1年前に比べ、減ったとした人の割合が前年から増加した。推移を見ると、増減を繰り返しつつも、水準に大きな変化はなく、横ばい状態で推移している。



2. 1年後の収入

1年後の収入について尋ねたところ、「増える」＋「やや増える」と予想した人の割合は12.7%で、前年比＋3.1ポイント。一方で、「減る」＋「やや減る」は29.5%と、前年比▲1.3ポイントであった。

世帯の収入の先行きについては、増えると予想した人の割合が増加し、減ると予想した割合は減少した。収入の先行きについては明るさがみられた。

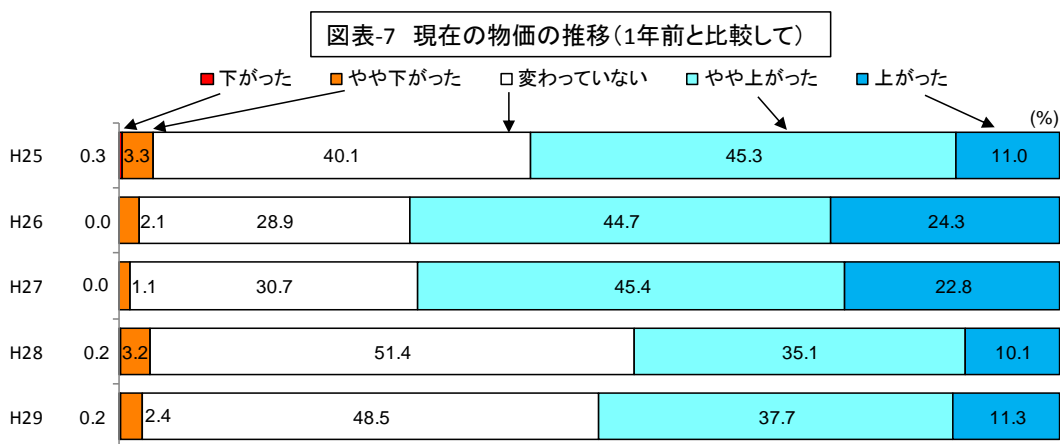


IV. 物価について

1. 現在の物価（1年前と比べて）

物価について尋ねたところ、1年前と比べて「下がった」＋「やや下がった」と回答した人の割合は2.6%で、前年比▲0.8ポイント。「上がった」＋「やや上がった」とした人は49.0%で、前年比＋3.8ポイントであった。

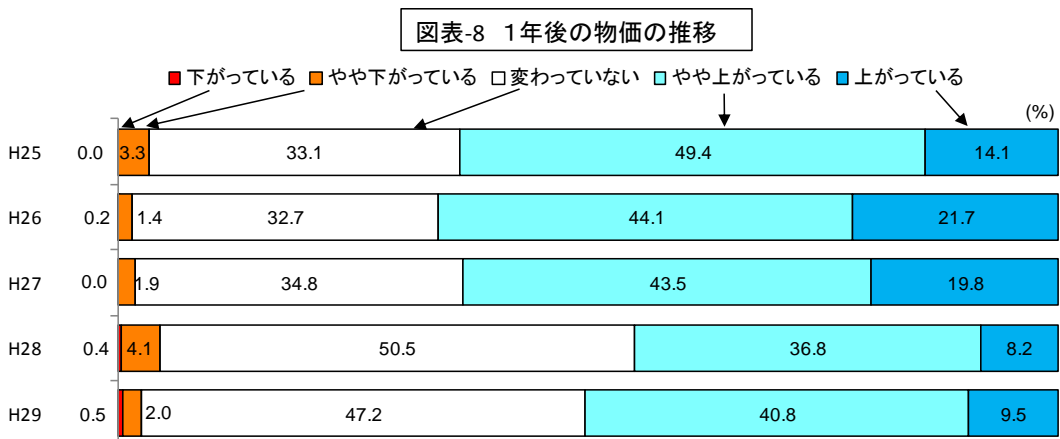
物価については、上がったと感じている人の割合が、下がったと感じている人の割合を大きく上回った。過去の調査結果においても、同様の傾向を維持しており、生活の中で購入するモノ、サービスの値上がりを感じている人は多いとみられる。一方で、消費増税のあった平成26年と比較すると、「(やや) 上がった」の割合は約20ポイント低下しており、物価の上昇ペースには一服感があると考えられる。



2. 1年後の物価

1年後の物価について尋ねたところ、「下がっている」＋「やや下がっている」と予想した人の割合は2.5%で、前年比▲2.0ポイント。「上がっている」＋「やや上がっている」と予想した人は50.3%で、前年比＋5.3ポイントであった。

1年後の物価についても、上がると予想した人の割合が、下がると予想した人を大きく上回っている。前年に比べて、上がると予想した人の割合は増加しており、引き続き半数の人が物価の上昇傾向が継続するとみている。

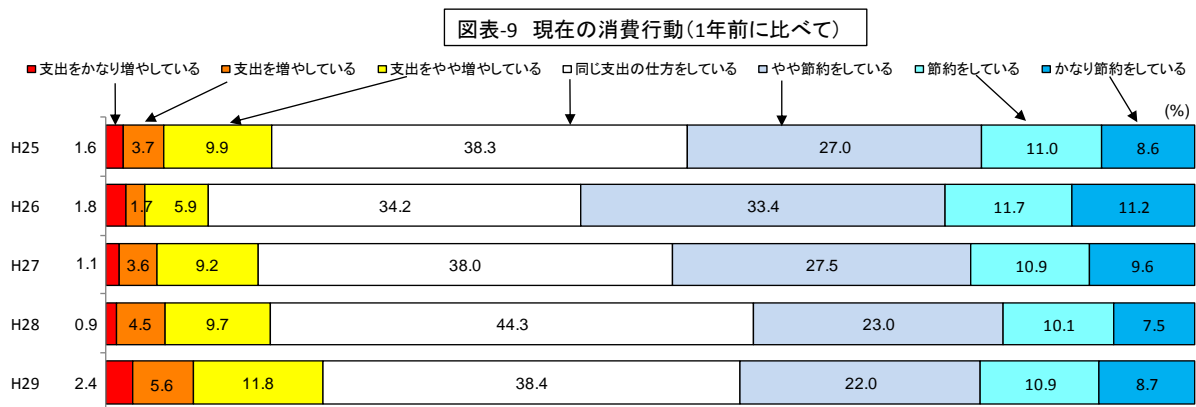


V. 消費について

1. 現在の消費行動（1年前と比べて）

お金の使い方について尋ねたところ、1年前と比べて「支出をかなり増やしている」+「支出を増やしている」+「支出をやや増やしている」と回答した人の割合は19.8%で、前年比+4.7ポイント。一方で、「かなり節約をしている」+「節約をしている」+「やや節約をしている」は41.6%で、前年比+1.0ポイントであった。

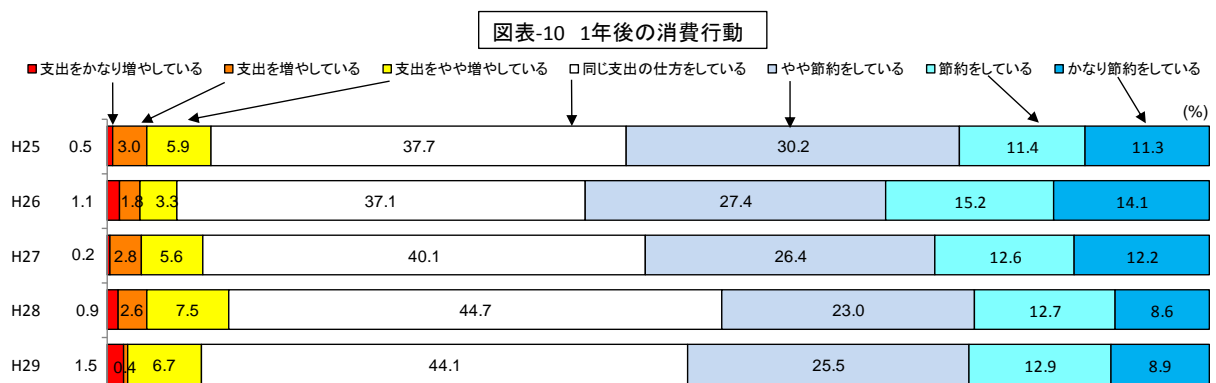
現在の消費行動においては、前年に引き続き節約しているとした人の割合は、全体の約4割を占めた。一方で、支出を増やしているとした人の割合は増加傾向にある。景気の回復を背景に、消費意欲が高まっていると考えられる。



2. 1年後の消費行動

1年後のお金の使い方について尋ねたところ、現在と比べて「支出をかなり増やしている」+「支出を増やしている」+「支出をやや増やしている」と予想した人の割合は8.6%で、前年比▲2.4ポイント。一方で、「かなり節約をしている」+「節約をしている」+「やや節約をしている」は47.3%で、前年比+3.0ポイントであった。

1年後の消費行動においては、暮らし向きの先行きへの不透明感からか、前年の調査結果に比べ、節約していると予想した人の割合が増加した。一方、推移をみると、景気の回復を背景に、平成26年以降、節約しているとした人の割合は低下傾向にある。



3. 支出が増加・減少した主な費目

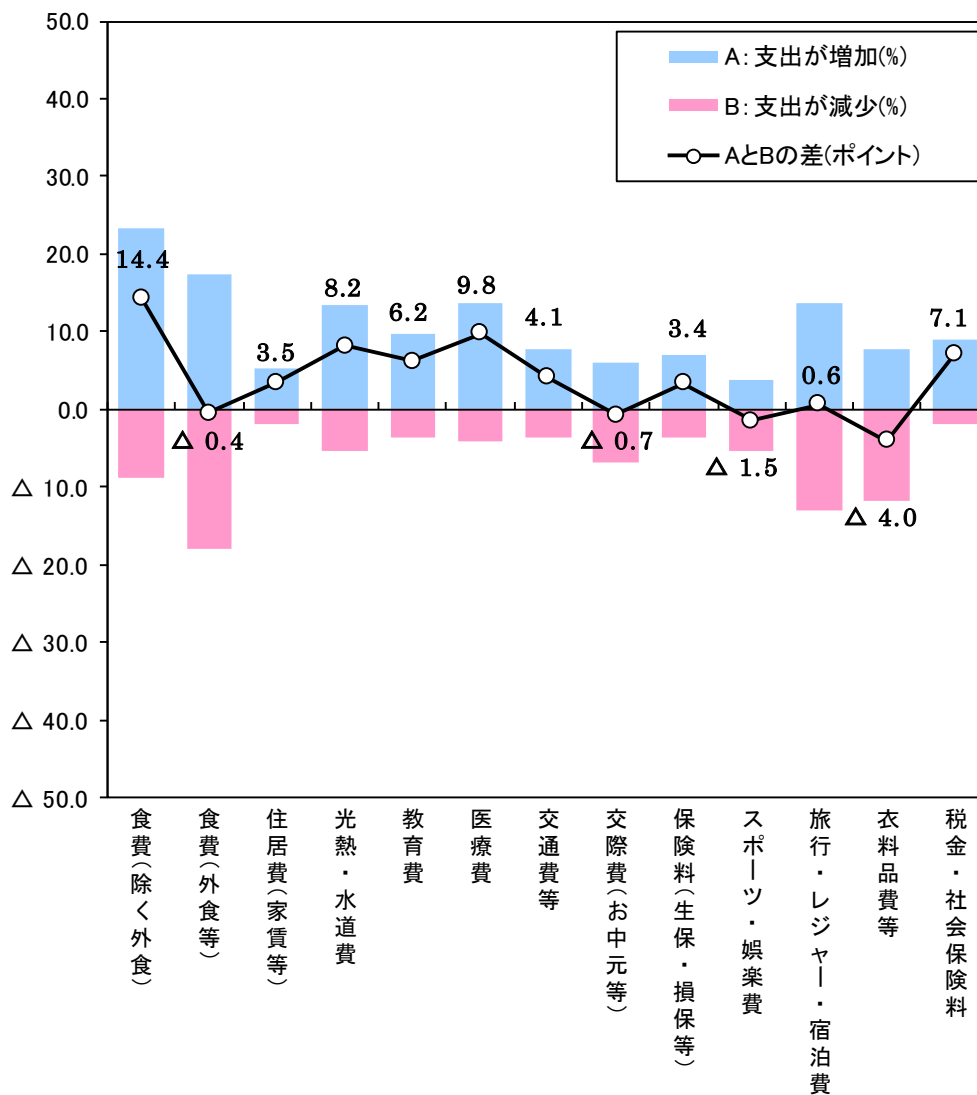
この1年間の支出で「増加した費目」と「減少した費目」について尋ねた（3つまでの複数回答）。

費目別に増減の差をみると、支出が増加した費目では「食費（除く外食）」が最も高く14.4ポイント、次いで「医療費」の9.8ポイント、「光熱・水道費」の8.2ポイント、「税金・社会保険料」の7.1ポイントとなっている。

一方、支出が減少した費目では、「衣料品費等」が最もマイナスとなり、▲4.0ポイント、次いで「スポーツ・娯楽費」の▲1.5ポイントとなっている。

(%・ポイント)

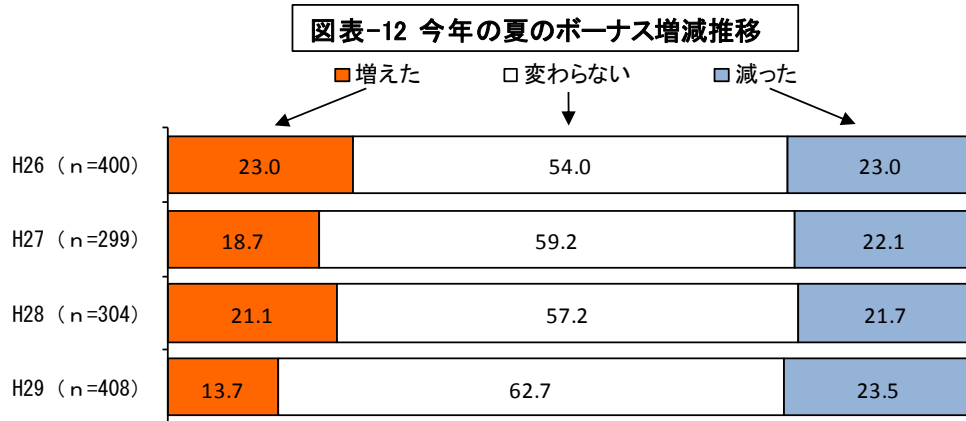
図表-11 費目別の支出(増加・減少・差し引き)



VI. 今年の夏のボーナスについて

1. 今年の夏のボーナス増減（1年前と比べて）

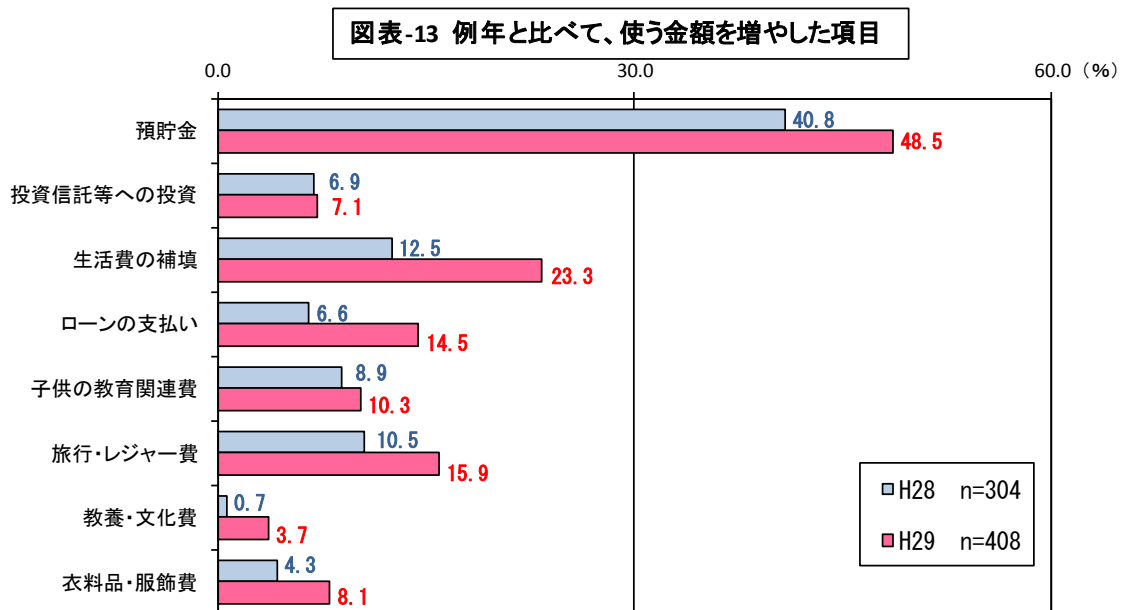
今年の夏のボーナスについて1年前と比べてどうか尋ねたところ、「増えた」が13.7%に対して、「減った」が23.5%であった。



2. 今年の夏のボーナスの使い道

今年の夏のボーナスの使い道について、昨年（又は例年）と比べて金額を増やしたもの（又は増やそうと思うもの）を尋ねたところ（複数回答）、「預貯金」が最も回答割合が高く48.5%であった。預貯金同様に将来の備えとなる「投資信託等への投資」は7.1%であった。

その他、回答割合が高かったものは、「生活費の補填」の23.3%、「旅行・レジャー費」の15.9%、「ローンの支払い」の14.5%であった。



（研究員 中野 祥吾）